

- 1 実施日時 令和7年4月16日（水）17日（木）
- 2 対象 3年生
- 3 調査事項 教科調査（国語・数学・理科）、質問調査
- 4 結果分析

（1）学力調査の結果から

- （国語）・平均正答率は、県平均と同じで、全国平均を下回っている
 - ・思考力、判断力、表現力の中では、「書くこと」は全国・県の平均より高い
 - 課題→「文章の全体と部分の関係に注意し、登場人物の設定を捉える」こと
- （数学）・平均正答率は、全国・県の平均を上回っている
 - ・4つの領域の中で、「関数」が全国・県の平均より良好である
 - ・すべての問題において、正答率が全国・県の平均を上回っている
 - 課題→「数学的な表現を用いて説明する」こと
- （理科）・平均正答率集計値、平均IRTスコアは、全国・県の平均を上回っている
 - ・すべての問題において、正答率が全国・県の平均を上回っている
 - 課題→「小学校で学習したことと中学校で学んだことを関連付けて理解していく」こと

（2）質問紙調査の結果から

- 平日・休日とも家庭学習に取り組んでいる生徒が多い
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に、「あてはまる」と答えた生徒の割合が全国・県の平均と比べて高い
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談」できると答えた生徒の割合が、全国・県の平均を大きく上回っている
- 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思うと答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている
- 下校後の学習時間は、全国・県の平均より長い
- 「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている
- 「国語の勉強は大切だと思うと答えた生徒の割合は、全国・県の平均より高い
- 1、2年生のときにパソコン・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した生徒の割合は、全国・県の平均より大きく上回っている
- △塾・家庭教師の利用率が、全国・県の平均を大きく下回っている
- △「普段の生活の中で、幸せな気持ちにようになる」と答えた生徒は、県平均を上回っているが、全国平均を下回っている
- △「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた生徒は、全国・県の平均を下回っている
- △「数学の勉強は好き」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均より低い

5 まとめ

ICTを活用した学習の機会は十分確保できている。家庭で、学習に取り組んでいる生徒が多く、全国県の平均と比べてよく勉強している傾向が見られた。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思うと答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っていることがわかったが、普段の生活の中の幸福感には課題があり、学校として継続的に取り組んでいきたい。また、今回の学力調査では、どの教科も平均正答率で全国・県の平均を上回っていたが、解答する時間が足りないと感じた生徒が多かったことも分かった。自分と違う意見について考える楽しさを感じられていないことが分かったので、今後、学校の授業の中で多様な意見について話し合う活動を増やすなど、協同的探究学習の理念に基づいた授業改善をいっそう進め、主体的・対話的で深い学びの実現をはかることが必要である。